

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-23544

(43)公開日 平成 6 年(1994) 3 月29日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 M 35/00				
A 6 1 K 7/00	L	9164-4C		
	B	9164-4C		
	Y	9164-4C		
		8718-4C		
			A 6 1 M 35/ 00	Z
			審査請求 有	請求項の数 2 (全 2 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 実願平4-48410

(22)出願日 平成 4 年(1992) 7 月10日

(71)出願人 000112266

ピアス株式会社

大阪府大阪市北区豊崎 3 丁目21番 3 号

(72)考案者 緑川 雄三

大阪市北区豊崎 3 丁目21番 3 号 ピアス株式会社内

(72)考案者 岸元 志津子

大阪市北区豊崎 3 丁目21番 3 号 ピアス株式会社内

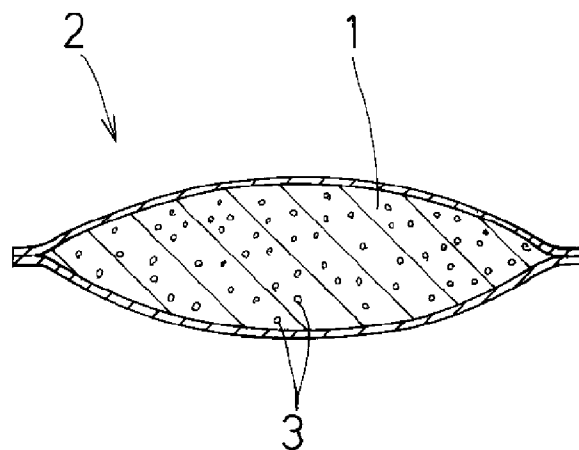
(74)代理人 弁理士 藤本 昇

(54)【考案の名称】 化粧料, 外用薬品, 皮脂等の塗布, 除去用衛生用具

(57)【要約】

【目的】 ざ瘡の治療及び予防のためのものとして、治療効果或いは予防効果が充分発揮され、しかも使用が簡単で、且つ副作用がほとんどなく、長期間継続して活用できるような化粧料, 外用薬品, 皮脂等の塗布, 除去用衛生用具を提供することである。

【構成】 化粧料, 外用薬品, 皮脂等の塗布, 除去用衛生用具にざ瘡の治療や防止に有効な成分 3 が含有、或いはコーティングされてなることにある。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ざ瘡の治療や防止に有効な成分3が含有されてなることを特徴とする化粧料、外用薬品、皮脂等の塗布、除去用衛生用具。

【請求項2】 ざ瘡の治療や防止に有効な成分3がコーティングされてなることを特徴とする化粧料、外用薬品、皮脂等の塗布、除去用衛生用具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の一実施例を示す化粧用コットンの断面

図。

【図2】 本考案の他の実施例を示す化粧用コットンの断面図。

【図3】 本考案の他の実施例を示す油取り紙の要部拡大断面図。

【図4】 本考案の他の実施例を示す油取り紙の要部拡大断面図。

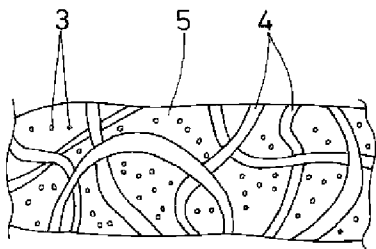
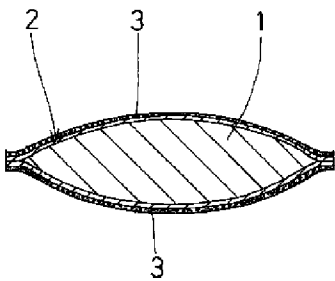
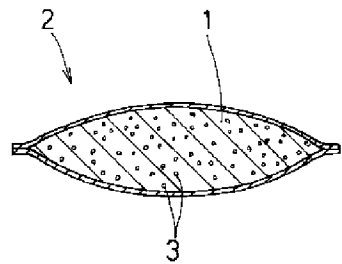
【符号の説明】

3 ざ瘡の治療や予防に有効な成分

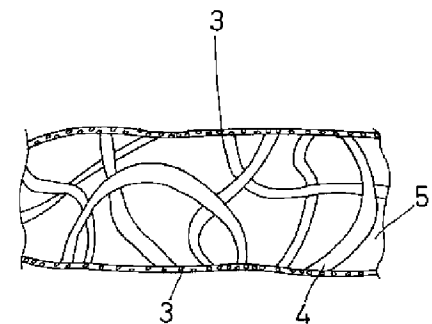
【図1】

【図2】

【図3】



【図4】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 9/00	V	7329-4C		
// A 6 1 K 33/04		8314-4C		
45/00		8415-4C		
(A 6 1 K 33/04	A D A			
31:60)		9360-4C		
(A 6 1 K 33/04				
31:44		9360-4C		
31:415)		9360-4C		

【考案の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】

本考案は、化粧料、外用薬品、皮脂等の塗布、除去用衛生用具に関する。

【０００２】

【従来の技術】

一般に、面皰や吹き出物、でき物等のざ瘡の治療法として、内服療法（抗生物質、ビタミン剤、ホルモン剤配合薬など）、外用療法（イオウ、乳酸エチル、サリチル酸等の配合品）等があり、また、予防法として、化粧品、医薬部外品を塗り付けたり、化粧（メイク）をしなかったり、洗顔剤にて洗顔し、顔面肌を常に清潔にしておくこと等が挙げられる。

【０００３】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、前記内服療法には副作用があり、例えば、前記抗生物質は胃腸障害、下痢、偽腹性大腸炎等の副作用、ビタミン剤は肝臓障害等の副作用が起こる可能性が多い。また、ホルモン剤は長期投与（薬物の連用）による副作用で、増悪現象が起こりやすい。

前記外用療法も適量以上の使用をすると、副作用が現れ、また、使用も結構面倒である。

更に、前記内服療法、或いは外用療法による治療にあたっては、医師の診断等が必要であったり、用法、容量等が薬事法にて定められているので、手軽に利用できないでいる。

【０００４】

また、前記予防法としての化粧品、医薬部外品は手軽に使用はできるが、使用した皮膚（顔面肌）のつつぱり、かさつき、臭い等の使用感の悪さや、皮膚への炎症等の副作用の問題がある。

【０００５】

本考案は、上述のような問題点を解決するためになされたもので、ざ瘡の治療及び予防のためのものとして、治療効果或いは予防効果が充分発揮され、しかも

使用が簡単で、且つ副作用がほとんどなく、長期間継続して活用できるような化粧料，外用薬品，皮脂等の塗布，除去用衛生用具を提供することを課題とするものである。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

本考案は、上記課題を解決するためになされたもので、その課題を解決するための手段は、化粧料，外用薬品，皮脂等の塗布，除去用衛生用具にざ瘡の治療や防止に有効な成分３が含有、或いはコーティングされてなることである。

【０００７】

【作用】

本考案に係る化粧料，外用薬品等の塗布，除去用衛生用具は、ざ瘡の治療や防止に有効な成分３が含有、或いはコーティングされているので、化粧料や外用薬等の塗布、或いは化粧料や皮脂等の除去の際に、同時にざ瘡の治療や予防ができる。

【０００８】

また、前記衛生用具に含有、或いはコーティングされたざ瘡の治療や予防に有効な成分３は、該衛生用具の使用の際、ごく微量ずつしか浸出してこないため、使用量を誤って副作用を招くようなことはない。

【０００９】

更に、もともと化粧料，外用薬品，皮脂等の塗布，除去用の衛生用具であるので、持ち運びが便利な上、手軽に使用でき、従って、長期に渡り、継続治療或いは予防が可能となる。

【００１０】

【実施例】

以下に掲げる実施例では化粧料や外用薬品等の塗布、或いは化粧料や皮脂等の除去のために使用する衛生用具として、化粧用コットン、化粧用スポンジ、油取り紙を例に挙げ、図面に基づき以下に説明する。

【００１１】

《実施例１》

本実施例は、主に化粧料を塗布或いは除去する場合に使用される化粧用コットンであり、該コットンは、図1で示すように、コットン繊維1からなる繊維積層体2にて構成され、該コットン繊維1間の隙間（空間部）に、ざ瘡の治療や防止に有効な成分3が包含されている。

【0012】

この際、前記有効成分3としてイオウを使用する。即ち、コットン繊維1Kgに対し、イオウ10g、パラベン3g、エチルアルコール30g、水52gを溶解した混合液を使用し、該混合液を浸潤させ、乾燥させた後にコットンを製造させるのである。

【0013】

前記構成の化粧用コットンに、現使用一般化粧料（主に化粧水）を含ませて顔面肌に塗布させた場合(I)と、一般に市販されているコットンに同様に現使用一般化粧料を含ませて顔面肌に塗布させた場合(II)と、前記一般に市販されているコットンに通常のざ瘡の治療、予防用化粧水を含ませて顔面肌に塗布させた場合(III)の、使用効果についての評価を30人の被験者にて試験し、比較を行ってみた。

その結果を下記表1に示す。

【0014】

【表1】

化粧用コットンに於ける評価

項 目		(I)	(II)	(III)		
使 用 感	香 り	5	5	1		評価ランク
	肌のかさつき	5	5	1	5	非常に良い
	肌のつっぱり	5	5	1	4	良 い
一ヶ月後のざ瘡の治療効果		3	1	3	3	やや良い
三ヶ月後のざ瘡の治療効果		4	1	4	2	やや悪い
六ヶ月後のざ瘡の治療効果		5	1	中止※	1	悪 い

※副作用により使用を中止にした。

【0015】

上記表1からわかるように、本実施例のコットンを使用した場合(I)と一般に市販されているコットンを使用した場合(II)を比較してみると、使用感においては変わりはないが、ざ瘡の治療効果においては顕著な差異が認められる。

【0016】

また、本実施例のコットンを使用した場合(I)と通常のざ瘡の治療、予防用化粧水を使用した場合(III)を比較してみると、使用感においては香り、肌のかさつき及びつぱりのどの項目を見ても本実施例のコットンを使用した場合(I)の方が優れていることが明らかであり、ざ瘡の治療効果においては、通常のざ瘡の治療、予防用化粧水を使用した場合(III)、六ヶ月後には肌のかさつき等の副作用が生じて、使用を中止せざるを得ず、ざ瘡はかえって悪化していったのに対して、本実施例のコットンを使用した場合(I)は六ヶ月後も副作用はなく、ますます

すその効果が向上していることがわかる。

【0017】

従って、本実施例の化粧用コットンは、使用感、治療効果、共に優れていると総合評価できる。

【0018】

尚、本実施例の化粧用コットンでは、上述のように有効な成分3をコットン繊維1間の隙間に包含させたが、これに限らず、図2で示すように、通常の化粧用コットンに前記さ瘡の治療や防止に有効な成分3をコーティングして製造させたものでもその効果は前記実施例と同様である。

【0019】

《実施例2》

本実施例は、主にファンデーションを顔面に塗布する場合に使用される化粧用スポンジであり、該スポンジは、スポンジ生地（NBR）を適宜形状に成型して構成されたものであり、前記スポンジ生地1Kgに対し、イオウ10g、ジンクピリチオン5g、チアベンダゾール5gを練込み成型して製造させている。

【0020】

前記構成のスポンジに、現使用一般ファンデーションを含ませて顔面肌に塗布させた場合(I)と、一般に市販されているスポンジに同様に現使用一般ファンデーションを含ませて顔面肌に塗布させた場合(II)と、前記ファンデーションの使用を中止させた場合(III)との、使用効果についての評価を30人の被験者にて比較してみた。

その結果を下記表2に示す。

【0021】

【表2】

化粧用スポンジに於ける評価

項 目	(I)	(II)	(III)		
使用感 : 肌のかさつき	3	3	1		評価ランク
ファンデーション効果: 日焼け防止	4	4	1	4	良 い
一ヶ月後のざ瘡の治療効果	3	1	3	3	やや良い
三ヶ月後のざ瘡の治療効果	4	1	4	2	やや悪い
六ヶ月後のざ瘡の治療効果	4	1	4	1	悪 い

【0022】

上記表2からわかるように、本実施例のスポンジを使用してファンデーションを塗布した場合(I)と、一般に市販されているスポンジを使用してファンデーションを塗布した場合(II)を比較してみると、使用感やファンデーション効果においては、変わりはないが、ざ瘡の治療効果においては顕著な差異が認められる。

【0023】

また、一般にざ瘡の治療を行う場合は化粧(例えば、ファンデーションの塗布によるメイク)をしない方がよいのであるが、本実施例のスポンジを使用してファンデーションを塗布した場合(I)と、ファンデーションの塗布を中止した場合(III)を比較してわかるように、ファンデーションを塗布しても、本実施例のスポンジを使用しさえすればざ瘡の治療効果は充分あり、本実施例のスポンジを使用することで、ファンデーションによる皮膚(顔面肌)への悪影響は防止されると共に、従来のファンデーション効果である日焼け防止効果が劣化することもないことがわかる。

【0024】

従って、本実施例の化粧用スポンジは、使用感、治療効果、共に優れていると総合評価できる。

【0025】

《実施例3》

本実施例は、主に顔面肌に付着し、顔の皮脂等の油分を吸着除去する場合に使用される油取り紙であり、該油取り紙は、図3で示すように、紙繊維4から構成され、前記油取り紙の繊維4間の隙間5（空間部）に、ざ瘡の治療や防止に有効な成分3が含浸されている。

【0026】

この際、前記有効成分3としては、上述の実施例1と同様にイオウを使用する。即ち、油取り紙1Kgに対し、イオウ10g、サリチル酸5g、エチルアルコール5g、水80gを溶解した混合液を使用し、該混合液を噴霧させた後に、高熱圧延ローラー処理をして油取り紙を製造させるのである。

【0027】

前記構成の油取り紙を使用した場合(I)と、一般に市販されている油取り紙を使用した場合(II)と、油取り紙を使用しなかった場合(III)との、使用効果についての評価を30人の被験者にて比較してみた。

その結果を下記表3に示す。

【0028】

【表3】

油取り紙に於ける評価

項 目	(I)	(II)	(III)	評価ランク	
				5	非常に良い
使用感 : 肌のかさつき	5	4	1	4	良 い
一ヶ月後のざ瘡の治療効果	4	2	1	3	やや良い
三ヶ月後のざ瘡の治療効果	5	2	1	2	やや悪い
六ヶ月後のざ瘡の治療効果	5	2	1	1	悪 い

【0029】

上記表3からわかるように、使用感においても、ざ瘡の治療効果においても、本実施例の油取り紙を使用した場合(I)が他の場合(II)，(III)に比べて著しくよく、本実施例の油取り紙は、使用感、治療効果、共に優れていると総合評価できる。

【0030】

尚、本実施例の油取り紙では、上述のように有効な成分3を油取り紙の繊維4間の隙間5に、含浸させたが、これに限らず、図4で示すように、通常の油取り紙に前記ざ瘡の治療や防止に有効な成分3をコーティングして製造させたものでもその効果は前記実施例と同様である。

【0031】

以上の実施例のように、化粧料、外用薬品、皮脂等の塗布、除去用衛生用具に、ざ瘡の治療や防止に有効な成分3を含有、或いはコーティングさせることによって、ファンデーション等の化粧料でメイクしたり、メイクを落としたりする際に、同時にざ瘡の治療や予防ができ、別途、ざ瘡の治療や予防作業をする必要が

ない上、ざ瘡が生じている或いは生じかけているにも係わらず、通常の化粧（メイク）をすることが可能である。

また、前記のようにメイクと同時に使用するので、メイクの際の化粧料の香りや使用感は個人の好みに適宜合わせたものを使用すればよい。

【0032】

前記実施例では、化粧料や外用薬品等の塗布、或いは化粧料や皮脂等の除去のために使用する衛生用具として、化粧用コットン、化粧用スポンジ、油取り紙を例に挙げたが、本考案に係る衛生用具には、その他、不織布、ガーゼ等の布、おしろい紙などどのような衛生用具にでも応用でき、その種類も問うものではない。

【0033】

また、ざ瘡の治療や予防に有効な成分として、その他乳酸エチル、殺菌剤、抗炎症剤等一般に使用されているざ瘡の治療や防止のための有効製剤を含有しても勿論構わない。

【0034】

更に、前記実施例では、ざ瘡の治療や防止に有効な成分を包含や含浸によって含有させたが、その他の手段にて含有させても良い。

【0035】

【考案の効果】

本考案の化粧料、外用薬品、皮脂等の塗布、除去用衛生用具は、ざ瘡の治療や防止に有効な成分が含有、或いはコーティングされてなるので、化粧料や外用薬等の塗布、或いは化粧料や皮脂等の除去の際に、同時にざ瘡の治療や予防ができ、別途、治療や予防作業をする必要がない。

【0036】

また、前記衛生用具に含有、或いはコーティングされたざ瘡の治療や予防に有効な成分は、該衛生用具の使用の際、適度（ごく微量ずつ）な量しか浸出してこないため、この作業を毎日継続して行うことで、徐々に自然とざ瘡の治療や予防効果が得られる上、使用量を誤って副作用を招くことがない。

【0037】

更に、もともと化粧料，外用薬品，皮脂等の塗布，除去用の衛生用具であるので、持ち運びが便利な上、手軽に使用でき、従って、長期に渡り、手軽な継続治療或いは予防が可能である。